

## 新燃岳 2025年7月22日に採取された火山灰の構成粒子の特徴

**2025年7月22日に気象庁が採取した新燃岳噴火火山灰の構成粒子の種類ならびに量比は、同月前半の一連の噴出物と同様である。**

霧島山新燃岳では、2025年6月22日に2018年6月27日以来となる7年ぶりの噴火が発生後、断続的に火山灰を放出する活動が継続している。鹿児島地方気象台が2025年7月22日15時20分に「硫黄山南西2」観測点の観測機器筐体上の火山灰を採取した ( $367.31 \text{ g/m}^2$ )。当該火山灰の採取地点は新燃岳から見て大浪池とほぼ同じ方角にある。7月21日未明に大浪池の監視カメラに火山灰が付着したことや、火山灰回収時に降灰していないことを併せて判断すると、当該火山灰は7月21日3時20分の噴火で放出された火山灰である可能性が高いと考えられる。

採取された火山灰は礫 ( $>2 \text{ mm}$ ) を含まず中粒砂 ( $0.25\text{-}0.5 \text{ mm}$ ) 以下の粒径である。この火山灰を蒸留水で水洗後、 $125\text{-}250 \text{ }\mu\text{m}$  および  $250\text{-}500 \text{ }\mu\text{m}$  に篩い分け、キーエンス社のデジタルマイクロスコープ (VHX-8000) で観察した。

火山灰構成粒子は、斜長石や輝石などの遊離結晶片 (C)、緻密でやや透明感のある淡色粒子 (LP)、黒色や灰色を呈した不透明な岩片 (DL)、光沢を有する黒色～暗褐色ガラス片 (DG)、熱水変質を受けた粒子と考えられる白色不透明岩片 (WL)、赤色の酸化岩片 (RL)、ガラス光沢を有する緻密な黒色～暗褐色岩片 (GL) が含まれていた (図1)。これらの火山灰構成粒子の種類は2025年7月以降の噴出物と同様である。このうち比較的新鮮にみえる緻密でやや透明感のある淡色粒子 (LP) の含有量は時間とともに増加する傾向がある。今後も新燃岳の動向に注視して火山灰構成粒子の変化を把握し続ける必要がある。

## 参考：

- ・ [2017年10月11日の霧島山新燃岳噴出物構成粒子の特徴 \(第一報\)](#), 2017年10月13日, 産総研地質調査総合センター
- ・ [2018年3月1～2日の霧島山新燃岳噴出物構成粒子の特徴](#), 2018年3月3日, 産総研地質調査総合センター
- ・ [新燃岳2025年7月5～9日噴火の火山灰構成粒子の特徴](#), 2025年7月11日, 産総研地質調査総合センター
- ・ [新燃岳2025年7月2～4日噴火の火山灰構成粒子の鉱物・ガラス化学組成](#), 2025年7月14日, 産総研地質調査総合センター

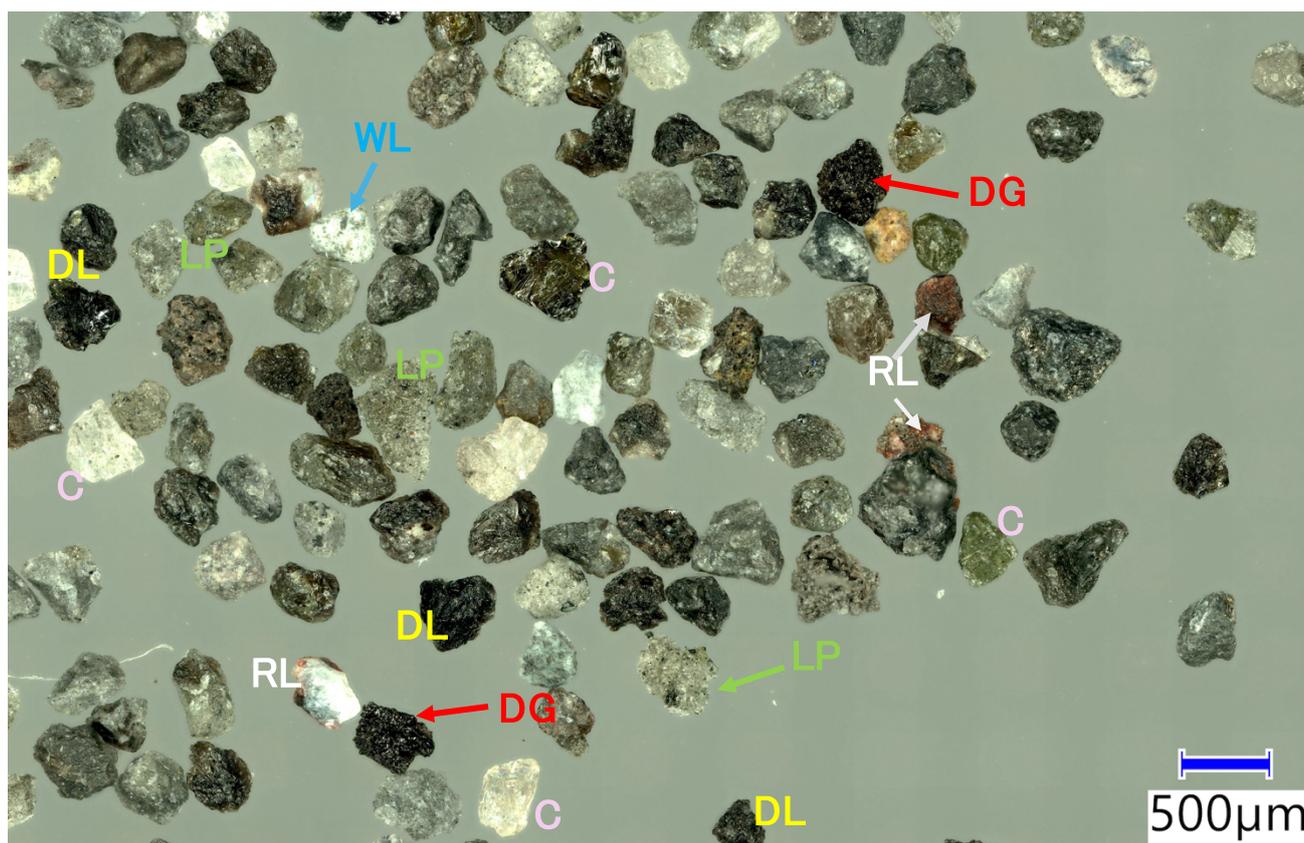


図1 2025年7月22日15時20分に「硫黄山南西2」観測点の観測機器筐体上から採取した火山灰の構成粒子写真 (粒径 250-500 µm). 鹿児島地方気象台採取. 分類も示す (略号については本文を参照のこと).